



愛知県における 野生鳥獣による農作物被害の状況（2020 年度）

2021 年 8 月 31 日

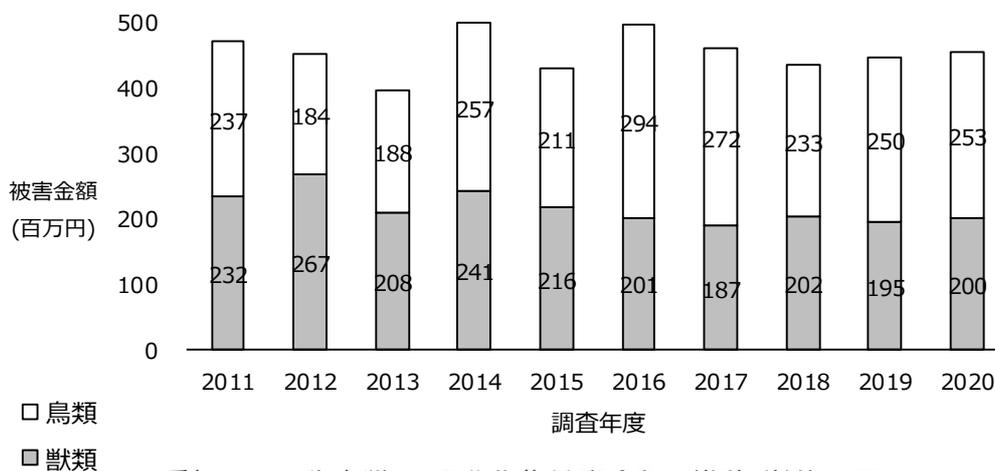
1 概況

（1）2020 年度の被害状況

指標	単位	調査結果	前年比 (%)
被害面積	ヘクタール	544	94
被害量	トン	2,512	104
被害金額	億円	4.54	102

- ・前年比で被害面積は微減、被害量及び被害金額は微増で、おおむね 2019 年度と同程度でした。
- ・2015～2019 年度の 5 か年の平均に対する 2020 年度の被害金額の比率は 100.3%でした。ほぼ横ばいの状態が続いているといえます。

（2）被害金額の推移

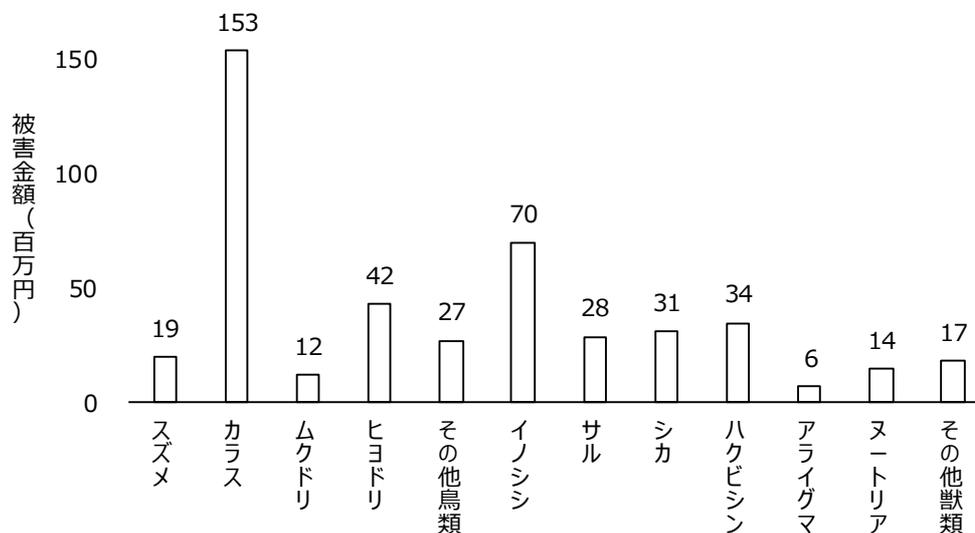


愛知県の野生鳥獣による農作物被害金額の推移(単位：百万円)

- ・鳥獣被害防止特措法に基づく総合対策が開始された 2011 年度以降、被害金額は 4 億 5 千万円前後で推移しています。
- ・2016 年度以降、鳥による被害金額が獣を上回っており、都道府県別でも常に上位にあります(2019 年度は全国第 2 位)。

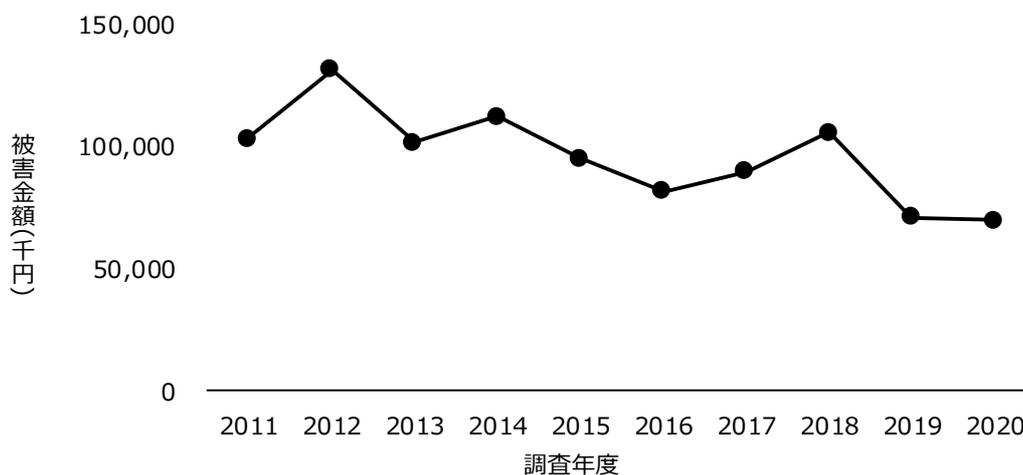


2 鳥獣種別の被害状況



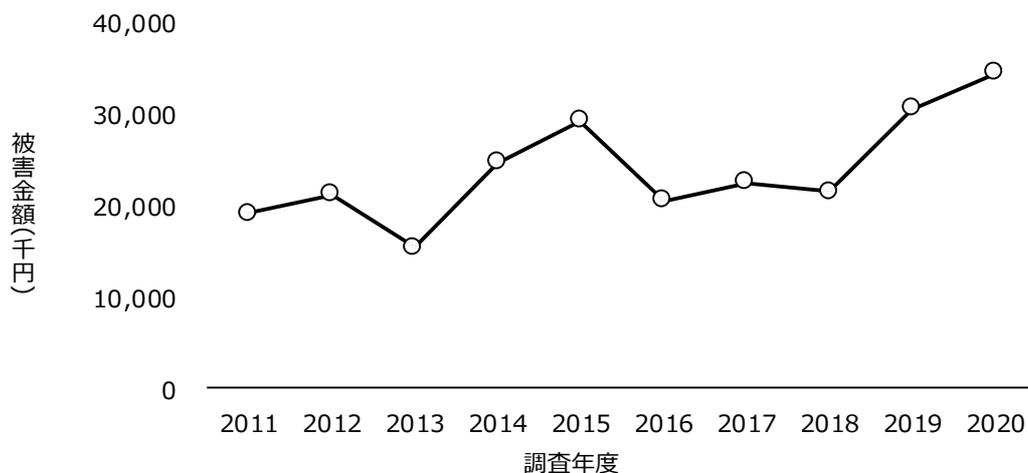
鳥獣種別の農作物被害金額(2020年度、単位：百万円)

- ・2020年度の鳥獣種別の被害金額は、カラスによるものが最大でした。獣類に限定すれば、イノシシによるものが最大でした。
- ・ヒヨドリ(第3位)、ハクビシン(第4位)の被害金額が相対的に大きいことが特徴で、園芸作物の生産が盛んであるためだと考えられます。



イノシシによる農作物被害金額の推移(単位：千円)

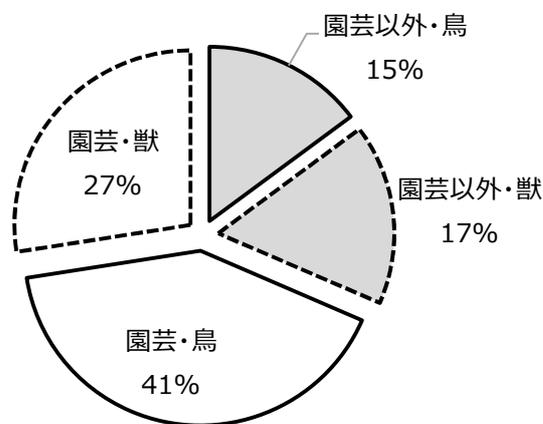
- ・イノシシ被害は、2018～2019年度に大きく減少、2020年度は微減でした。
- ・2020年度の被害金額は、直近10年間のピークである2012年の約1/2(53%)でした。



ハクビシンによる農作物被害金額の推移(単位：千円)

- ・ ハクビシンによる被害金額が目立って増加傾向で、2020年度の被害金額は2011年度の1.8倍でした。
- ・ 鳥獣種別の被害金額もカラス、イノシシ、ヒヨドリに次ぐ値となりました。

3 農作物区分別の被害状況

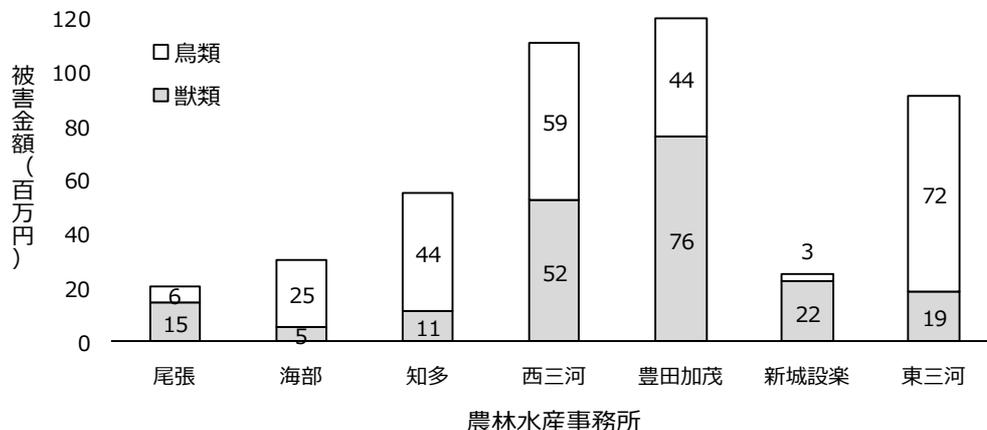


鳥類・獣類、園芸・園芸以外の被害金額の比率
(2020年度)

- ・ 農作物区分別の2020年度被害金額は、野菜が最も多く182,661千円、次いで果樹128,043千円、稲91,771千円でした。
- ・ 園芸作物の被害金額が大きく全体の68%、園芸作物における鳥害が全体の41%を占めます。同様の傾向は被害状況調査の開始時点(2001年度)から続いており、愛知県の農業生産の特徴を反映していると考えられます。

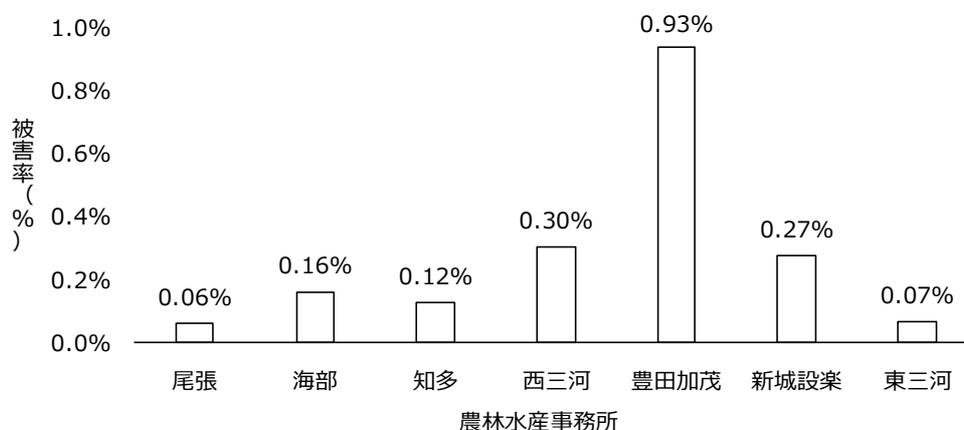


4 地域別の被害状況



地域別の野生鳥獣による農作物被害金額
(2020年度、単位：百万円)

- 農林水産事務所管内別の2020年度被害金額は、昨年度までと同様に豊田加茂が最も多く、次いで西三河、東三河の順となりました。



地域別の野生鳥獣による農作物被害率
(2019年度、被害金額/産出額、単位：%)

- 農業産出額が大きい地域ほど被害金額も大きい傾向ですが、産出額と被害金額は直線的な相関関係を示すわけではありません。被害率(被害金額/産出額、2019年度)に着目すると、豊田加茂、西三河に次いで新城設楽が高い値となりました。
- 市町村別の被害率(2019年度)は、豊根村が最大(10.27%)、次いで東栄町(1.11%)、豊田市(1.10%)でした。愛知県全体では0.15%でした。